

### はじめての西駒登山

蟹澤 聡史

手良中学校2年の7月だった。いつも家を出て学校に行く道すがら見上げている西駒ヶ岳に登った。昭和25年終戦直後のことゆえ、今とは比べられないほどの食糧事情と交通の便が悪い頃の話。校庭に午前3時前に集まって北殿駅まで歩き、飯田線一番電車に乗って赤木駅で下車、そこから歩き始めた。持ち物は、前の日に農協で焼いてもらったコッペパンと家から持ってきたおにぎり。祖父が富士登山に使った金剛杖をもって、油紙でつくった合羽といういで立ち。あとはひたすら歩いて前山のオッ越を越えて。沢まで下って伊勢滝あたりで昼食だったように記憶する。ゴウゴウと音を立てて流れ落ちる伊勢滝は素晴らしかった。ふたたび登って濃ヶ池に到着、近くの小屋に泊まった。板屋葺きの小屋で周囲は石で囲ってあった。この辺りで大正2年に中箕輪尋常高等小学校の生徒が遭難したとの話を聞いた。「遭難記念碑」が頂上近くに建っていた。板敷にムシロを敷いただけの小屋だったが、持参した握り飯の旨かったこと。その日は早々と寝た。

早朝からの長い長い道中だったが、天気にも恵まれ、みんな元気そのものだった。翌朝早く起きてご来光を拝んだ。高鳥谷、伊那富士などの前山の彼方に南アルプス、富士山が見えた。そして天竜川のむこうが故郷の手良、いつもは西に聳える西駒を眺めていたが、はじめて反対の方向を望んだのだ。頂上に登ると天狗岩が見えた。そのときの山々の神々しさが忘れられず、その後何度もこの山に登った。単独行のこともあったし、大学時代の友人を案内したこともあった。卒論や修論でも登ったし、教員になってから学生の指導でも登った。この辺りの山々は花崗岩から成り立っているということ、千畳敷のすり鉢型はカール地形だとずっと後になって知った。

改めて地図を眺めて、よくこんな長い道中を歩いたものだと自分ながら感心する。その後、千畳敷にはロープウェイが敷かれ、あつという間に登れる。それでも、最初に登った時の感激には及ばない。あの時の幼友達の多くも鬼籍に入ってしまった。写真を見るたびに懐かしさがこみ上げてくるふるさとの山々。

(東北大学名誉教授)



### 「水分大好き」

上岡 実弥子

水モノが大好きです。朝起きるとタンブラー2本のお茶を飲み、朝食で日本茶を2杯飲む。日中も何かしら水分を摂り、夜はお酒を飲む。外食はラーメン・蕎麦など汁麺を好み、スープは残さず飲み干す……おそらく、1日3ℓ以上は水分を摂っているでしょう。

コーヒーよりお茶党で、茶葉をよりどりみどり取り揃えております。緑茶、ほうじ茶、紅茶各種、ルイボスティー各種、ハーブティー各種、黒豆茶、小豆茶、菊芋茶、フレーバー麦茶、トウモロコシのひげ茶、甘茶、ゴボウ茶 etc. たまにミルクを入れたり甘くしたりとっかえひっかえ飲むのは楽しいです。

なので人間ドッグが1年で一番ツライ。なにせ当日朝は水1杯しか飲みません。コップの水をみみちくペロペロ舐めてどんより検診に向かい、終わったとたん500ml2本イッキ飲みして生き返る。まる

で水耕栽培の植物です。

なぜ水分大好きかという、幼少のみぎりからお茶とお茶うけをたしなんだからでしょう。

漬物 or お菓子をひと口かじり、お茶をひと口飲む。お茶うけ→お茶、お茶うけ→お茶……結果として漬物10切れ→お茶10口すすりますから、そりやもうお茶をガブガブ飲むようになるわけです。

中国に「工芸茶」というお茶があります。茶葉に湯を注ぐと徐々にほどけて花の形になり、味・香りも良く見た目もキレイ。伊那で見かける「桜茶」も工芸茶の一種でしょう。桜の花の塩漬けにお湯を注ぐと花開く……高遠のお花見にぴったりですね。

さて、水分大好き人間がお酒を飲むとどうなるか。肴をひと口食べ、お酒をひと口飲む……口の中で肴とお酒のマリアージュ。うまい！肴をひと口、お酒をひと口。肴→お酒、肴→お酒……おやおや？肴はまだあるのにいつの間にかお酒がなくなった……そこで、

「すいませーん！ナマ中お代わり！」

こうして酒量が増えていくのであります。

(株)キャラウィット代表取締役



### 遠くなった故郷

神沼 靖子

21世紀に入つてすぐ、姪の結婚式で伊那市を訪れて以来、コロナ禍もあり十余年もご無沙汰しています。

2020年だったと思います。主人が長野在住の地震研究所時代の後輩の運転で中央構造線を見に大鹿村を訪れました。帰路、諏訪に向かう国道を走っていたら、大鹿村からいきなり伊那市になった、町村合

併の結果だろうが驚いた、と話してくれました。しかしながら話を聞いても私には大鹿村に接する伊那市のイメージは湧きませんでした。

それより少し前、80歳を目前に、信州に育ちながら世界の山国スイスに行っていないことに気が付き、主人が探し出してきた「アルプス4大名峰を巡る旅」に参加しました。イタリアのコモ湖からベルニナアルプスを見て、氷河特急でツエルマットに行き、マッターホルンを堪能しました。その時、私は不覚にも、登山電車の終点、標高3,000m超えのゴルナグラードで体調がおかしくなりました。年齢のためか、かつては穂高岳にも登ったことがあるのに、3,000mを超える高所に耐えられない身体になっていました。仕方なくモンブランも山麓のシャモニから、アイガー三山も北麓のクライネシャイデックから眺めるだけでしたが、スイスの自然を満喫できました。

クライネシャイデックの新田次郎の銘板の前からユングフラウやメンヒを眺めていたら、突然、伊那谷から見る北岳、仙丈岳さらには木曾駒ヶ岳の姿が脳裏に現れました。離れて時間は経っても、子供の頃から見続けた故郷の山々は覚えているのだと実感しました。

リニア新幹線が伊那谷を横切る時代になりましたが、伊那の自然の姿はなるべく残して欲しいと願う毎日です。

「故郷は遠くなりました」がまだときどき執筆は続けています。

(情報処理学会フェロー)



ツエルマットから見たマッターホルン